富士市立須津小学校　令和5年度9月号

Community School だより

文責：菊岡　文枝
（CS ディレクター）

９月になってもまだまだ暑い日が続いていますね。保護者の皆様、地域の皆様には本校の教育活動にご協力いただき、まことにありがとうございます。

さて皆様は須津地区に古墳がたくさんあることをご存知でしょうか？須津小学校では６年生を中心に古墳について学習する時間があります。今、神谷緑町の北側にある市指定史跡「千人塚古墳」を中心に、公園化する事業が進んでいます。そのため「千人塚古墳」の周辺を発掘調査しています。また、増川の福聚院の北側にある国指定史跡「浅間古墳」も発掘調査に向け、学識経験者や地域の皆様もメンバーに加わり検討会が立ち上がっています。須津小の望月校長も検討会のメンバーの一人です。

９月 20 日（水）に須津小と東小の６年生が、二つの古墳の見学に行ってきました。古墳時代は西暦 250 年頃から 600 年頃まで続きました。今から 1500 年以上前です。子どもたちは富士市の学芸員の佐藤さん・藤村さんの話を聞き、古代に思いを馳せていました。

浅間古墳

浅間古墳は４世紀中葉（古墳時代前期後葉）に築かれたと考えられる古墳で、墳丘長約 91mの前方後方墳で、前方後方墳としては東海地方最大級の古墳です。墳丘の表面は須津川の石を使用した葺石で覆われていたと考えられ、南に広がる浮島ヶ原や駿河湾からよく見えるように意識して造られた巨大な首長墓です。

令和元年 10 月に行われた地中レーダー探査で、後方部に地表から 2.0～2.5mほどの深さに幅 1～３m程度の構造物に囲まれた埋設物があることを示す反応がありました。この地点は古墳では一般的に埋葬施設が造られる場所です。ここに竪穴式石室が残存している可能性が高いと思われます。埋葬施設があると予想される場所には白線で目印をつけてあったので、とても分かりやすかったです。

令和２年６月には上空を飛行するドローンから地上へ向けてレーザーを照射する空中レ

ーザー測量調査を行いました。この調査で後方部二段、前方部一段築成の前方後方墳であることが明確になりました。また、古墳の北側（山側）と南側（海側）では古墳の高さが大きく異なり、海側から見たときにより大きく見えるように造られていることが明らかになりました。子どもたちは古墳の上や周囲を歩き、浅間古墳の大きさを実感していました。博物館の学芸員の話はとてもわかりやすくて、子どもたちは熱心にメモをとっていました。

千人塚古墳

千人塚古墳は愛鷹山西麓に広がる須津古墳群にある墳径約 21.0m, 周溝の幅約 3.0mの円墳です。7 世紀前半から中頃に築かれたと考えられています。現在、横穴式石室が露出しています。保護するためのシートがかけられ、普段は中を見ることはできません。今回はシートを捲って中を見ることができました。

横穴式石室は全長 11.4m以上、高さ２m以上となる大型のものです。石室内には板状に割った石を組み合わせてつくった３基の箱形石棺が置かれ、副葬された武具や馬具、須恵器などが残っていました。出入口がある構造の横穴式石室は複数回の埋葬（追葬）が可能で、千人塚古墳では少なくとも３人が埋葬されたとみられます。出土した須恵器の本物も見ることができました。

須津川周辺に約 200 基、愛鷹山南麓全体で 1000 基以上の小規模な古墳が密集していたとみられ、千人塚古墳はそれらの古墳を造った集団のリーダー格の人物の墓であると考えられています。調査のためにトレンチという溝を掘ります。溝には地層や周溝の様子が残っています。